

令和 4 年度入ゼミ用

国際総合学類ゼミシラバス集

令和4年度入ゼミ用 国際総合学類ゼミシラバス集 総目次

国際学ゼミナール I, II 担当教員一覧	1
国際政治・国際法分野	2
経済学分野	13
文化・社会開発分野	22
情報・環境分野	27

国際学ゼミナール I, II 担当教員一覧

<p>国際政治・国際法分野</p> <p>大倉 沙江 大友 貴史 茅根 由佳 Timur DADABAEV Leslie TKACH-KAWASAKI 外山 文子 潘 亮 東野 篤子 毛利 亜樹 吉田 脩</p>	<p>文化・社会開発分野</p> <p>井出 里咲子 柴田 政子 関根 久雄 寺内 大左 松島 みどり</p>
<p>経済学分野</p> <p>柏木 健一 黒川 義教 田中 洋子 内藤 久裕 中野 優子 Mohammed Abdul MALEK Abu Girma MOGES Zhengfei YU</p>	<p>情報・環境分野</p> <p>岡 瑞紀 奥島 真一郎 亀山 啓輔 蔡 東生 白川 直樹 鈴木 大三 高橋 伸 Simona Mirela VASILACHE 松原 康介</p>

※各分野内の教員名は五十音順。

* シラバスが未掲載のゼミの概要等に関しては、担当教員にお問い合わせください。

国際政治・国際法分野

大倉沙江ゼミ（市民社会論）

筑波大学人文社会系助教 大倉 沙江

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、政治・政策と社会とのかかわりに興味をもち、日本や世界の政策がどのように形成されているのかを実証的に検証することに関心がある学生を募集します。ゼミでは、日本政治論、政治過程論、市民社会論、フェミニズム、ジェンダー論に関する文献レビューを行います。また、独立論文・卒業論文の進捗状況報告など、ゼミ生による発表も行います。

2. 開講曜時限

(1) 春ABおよび秋AB：金曜3-4時限

(2) 春Cおよび秋C：集中

*今年度はオンライン（Microsoft Teams）で実施しています

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件

- ・ 現代日本政治に関する基礎的知識を有すること
- ・ 少なくとも1回はオープンゼミに必ず参加すること
- ・ 「市民社会論」あるいは「政治参加論」を履修していることが望ましい

入ゼミの方法

- ・ 下記の3点についてA4用紙1枚にまとめて、1月末日までにE-mailで提出してください
 - ① 簡単な自己紹介
 - ② 独立論文で取り組む研究テーマの概要
 - ・ 以下の3点について記載があることが望ましい
 - 1) 研究テーマに関連する先行研究のまとめ
 - 2) 先行研究のまとめを踏まえた自分が取り組みたいテーマ
 - 3) 研究の方法
 - ③ 3年次以降に長期の休学・留学予定がある場合は、留学先と期間

選抜スケジュール

10月～12月15日：オープンゼミ（ゼミはオンラインで実施しますので、事前にE-mailで連絡をください）

1月末日：ゼミ参加希望受付締切日（E-mailで受け付け）

2月中旬：選抜結果連絡

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

- ・ 連絡先：okura.sae.gn@u.tsukuba.ac.jp
- ・ 不明な点は、E-mailで相談をしてください。面談も歓迎します

大友貴史ゼミ（国際関係論）

筑波大学人文社会系准教授 大友 貴史

1. ゼミナールの概要

国際関係論に関する文献を読み、様々な視点から主に国際安全保障に関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くはオリジナル（英語）で読みます。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。

2. 開講曜時限

予定 春AB 水曜 3・4限 春C集中

秋AB 水曜 3・4限 秋C集中

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「国際政治学(International Politics)」を履修していること。

入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4で1枚）を提出。面談。

これらをもとに選抜します。

10月（ゼミ説明会后）～12月15日：オンラインゼミ見学・面談（いずれも事前にメール連絡の上）

2月1日：関心テーマ締切日（ohmoto.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jpまでお送り下さい。）

2月15日：結果をメールで通知します

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：ohmoto.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp

東南アジア政治ゼミ

筑波大学人文社会系助教 茅根 由佳

1. ゼミナールの概要

主に東南アジア現代政治に関する代表的な著作、論文（日本語、英語）を読み、各国の重要争点に関して理解を深めることを目的とする。発表を通じて討論を重ねることで自身が興味を持つテーマの知識を深める。また独立論文、卒業論文作成にむけた準備を行う。

2. 開講曜時限

火曜5限

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「アジア政治」を履修していること。

ゼミ履修を希望する学生は、東南アジア政治において関心のあるテーマについて、A4で1枚程度のレポートをメールにて提出し、面談を実施する。

10月12日（ゼミ説明会后）～12月14日：ゼミ見学（事前にメールで連絡すること）

12月31日：レポート提出締切日

1月1日-31日：教員による選抜期間

2月1日：選抜結果通知

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：kayane.yuka.ga@u.tsukuba.ac.jp

タック 川崎 ゼミ Tkach-Kawasaki Seminar 2020-21
Leslie Tkach-Kawasaki, Associate Professor, Grad. School of Humanities and Social Sciences
Contact information (連絡方法) tkach.kawasaki.l.f.p (at) u.tsukuba.ac.jp (at は@)

ゼミナールの概要 / Introduction

Subject Specification: Political Communication, Media and Internet Studies, Internet Research Methodology, and Content Analysis. Most students use interviews, content analysis (内容分析), surveys, and similar methodologies.

Objective/Description: The seminar is conducted throughout the year and emphasizes practical research design and methodological approaches

ゼミ Day/Time: At present, the seminar is held on Mondays, Period 5. A new day/time for 2022-23 may be chosen in consultation with the students.

Important Points:

1. Readings will be in English and Japanese.
2. You can write your independent thesis (独論) and/or your graduation thesis (卒業論文) in English or Japanese.
3. Seminar discussion will be in English and Japanese.
4. Seminar presentations will be in English and/or Japanese.

ゼミに入る方法: (1) Interview with the instructor and open attendance at ゼミ (Nov./Dec.) (please contact her by email); (2) Decision by instructor / student about attending ゼミ in 2022-23 (end Jan.)

必要となる予備知識/Prerequisites: There are no prerequisites, but students should be prepared to learn how to use basic statistical methods (through Excel or SPSS), bring their notebook computers or smartphones to the ゼミ, and be unafraid of making presentations in front of a small group.

テキスト/Textbooks and materials:

Will be assigned according to students' research topics and interests.

単位取得要件・成績評価基準/Requirements and grading:

Grading is based on ゼミ participation (attendance and actual performance/attitude during the seminar).

Past topics of student 卒業論文 (Examples)

- “Youtube Beauty Gurus” (2011-12)
- 「橋本徹大阪市長に関する報道の内容分析」 (2012-13)
- “Language and Identity” (2012-13)
- 「海外生活におけるアイデンティティの維持と変容—在独日本人と在日ドイツ人の比較」 (2013-14)
- “Branding of Disaster Relief Efforts: A Case Study of the 2011 Japan Earthquake and Tsunami” (2013-14)
- 「「萌え」とテロリズム—ソーシャルメディアと新聞によるテロリズムの再構築—(2018-19)
- “Relating Media Interactions to Racial Cognition: A Case Study of Malaysia” (2020-21)

外山文子ゼミ（東南アジア政治）

筑波大学人文社会系准教授 外山 文子（とやま あやこ）

1. ゼミナールの概要/ Introduction

東南アジアの政治や歴史に関する文献を読み、様々な視点から主に東南アジア地域（特に大陸部）における民主化などに関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くは、英語文献を取り上げます（日本語の文献を取り上げることもあります）。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。

2. 開講曜時限/Semester, period and venue

予定：春AB 木曜 5（15:15～16:30）

秋AB 木曜 5（15:15～16:30）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール/ Prerequisites, how to apply and selection schedule

履修要件：特になし。「アジアの国際関係」を履修しておくとい。

入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4で1枚）の提出。面談。

これらをもとに選抜します。

10月（ゼミ説明会后）～12月23日：教員訪問（事前にメール連絡の上）

2月20日：関心テーマ締切日（toyama.ayako.fw@u.tsukuba.ac.jp までお送り下さい。）

2月22日：結果をメールで通知します

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）/ Additional information

連絡先：toyama.ayako.fw@u.tsukuba.ac.jp

潘亮ゼミ（日本外交）

筑波大学人文社会系教授 潘 亮

1. ゼミナールの概要

明治以降、今日に至る日本の対外関係の形成過程とその歴史的背景を国際関係史の文脈で議論する。近現代国際社会における日本の位置づけについて独自の理解と発想を養うことを目的とする。具体的な問題関心について、歴史的なものであるという制限を設けないが、昨今の日本の対外関係に関する諸問題を研究する場合、歴史的な背景も意識する広い視野からテーマに取り組む習慣を養成したい。ゼミは外交関係の専門書の講読やフリーディスカッションなどが中心となっている。

2. 開講曜時限

原則的に毎週水曜日 16:45～18:00

3. 履修要件・入ゼミの方法

履修条件：「日本政治」または「現代日本外交史」を履修すること＋日本近現代史と世界史に関する基礎的知識を有すること

入ゼミの方法： 問題関心に関するメモ（A4用紙1枚）を提出し、それに基づいて面接を受ける。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

leon@dppe.tsukuba.ac.jp

5. ゼミ生選抜日程

10月26日～12月10日：教員訪問期間（要メール連絡）

10月26日～1月25日：ゼミ見学期間（メール連絡の上、参加自由）

2月24日：ゼミ参加表明締切日

2月24日：選抜結果通知

東野篤子ゼミ（ヨーロッパ国際政治）

筑波大学人文社会系准教授 東野 篤子

1. ゼミナールの概要

欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などを中心としたヨーロッパの国際政治を学ぶ。具体的には、1 学期中に国際政治学全般およびヨーロッパの国際政治に関する代表的な文献を読み、レジュメ報告をもとに討論を行う。2 学期以降は各自の問題意識を養いつつ、独立論文および卒業論文作成に向けた準備をすすめていく。

2. 開講曜時限

火曜2限（ほぼ毎週、お昼休みに食い込んで実施していますので、ご承知おきください）

3. 履修要件・入ゼミの方法

- ・ 私は、2023 年度に大学を不在にする可能性があります。その場合、2022 年度に入ゼミした方については、2023 年度の指導は全面的にオンラインで実施することになります。このことを理解・納得した方のみ、入ゼミをご検討下さい。
- ・ 2021 年度 開講の「ヨーロッパの国際政治」および「ヨーロッパ政治」の両方を履修・単位取得済みであり、かつ成績が B 以上であった人を優先的に採用します。
- ・ ゼミではヨーロッパの国際政治、EU、NATO 関連の文献を大量に読み込む予定です。課された文献をすべて真面目に読み、積極的に討論に参加する意思のある学生の皆さんの参加を歓迎します。読書が苦手な方は、このゼミには向かないでしょう。
- ・ なお、過去にゼミで扱った文献を以下に挙げておきますので、入ゼミを検討する学生は必ず目を通し、自分の関心に会う内容かどうか、確認しておいてください。
 - ◇ マーク・マゾワー『暗黒のヨーロッパ』未来社、2016 年
 - ◇ パトリック・キングズレー『シリア難民 人類に突きつけられた 21 世紀最悪の難問』ダイヤモンド社、2016 年
 - ◇ ダグラス・マレー『西洋の自死 移民・アイデンティティ・イスラム』東洋経済、2018 年。
 - ◇ アン・アプルボーム『鉄のカーテン』（上）（下）白水社、2019 年。
- ・ 2022 年度 選抜スケジュールは以下の通り（今年度に関しては、2023 年度に私が不在である可能性があるため、すべての選考プロセスを前倒して実施します。「やはり他のゼミにした」と思った場合に、十分な時間的余裕を持って他のゼミを探せるように配慮しております）。
 - ◇ ゼミ説明会開始後から 11 月末まで：Teams によるオープンゼミ参加希望募集（完全予約制。希望した日時に参加できないこともあります）
 - ◇ 11 月 末： 教員へのゼミ参加希望表明締切日。順次 Teams で面接。
 - ◇ 12 月 末日： 関心のあるヨーロッパ国際関係のテーマにつき、A4 1 枚にまとめた レポートを教員までメール送付。さらに、必要に応じて面談を実施。順次可否通知発送。

4. その他

連絡先：higashino@dpipes.tsukuba.ac.jp

毛利亜樹ゼミ（中国政治、国際関係）

筑波大学人文社会系助教 毛利 亜樹

1. ゼミナールの概要

このゼミの目的は東アジアの国際関係と中国政治に対する観察眼を鍛えることです。インターネットが普及し、中国に関する情報はあふれています。しかし、情報を知識にするには、歴史を学ぶとともに、これを分析できる理論や概念を学ぶことが必要です。

ゼミ生が各自の問題関心にに基づき研究を行えるように、ゼミでは以下の作業を行います。

（1）春学期

- ・研究の方法論（論文とは、引用等のルールなど）
- ・テキストの輪読（近現代中国政治史の学習、分析の視点や資料選択を学ぶ）

過去に使用したテキスト例

- ・益尾知佐子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中華外交史』東京大学出版会、2017年。
- ・トム・ミラー（田口未和訳）『中国の「一帯一路」構想の真相』原書房、2018年。
- ・アーロン・L・フリードバーグ（佐橋亮監訳）『支配への競争』日本評論社、2013年。

- ・春C期間等応談 集中ゼミ

研究構想発表と討論（問題設定、資料選択を中心に）

（2）秋：各ゼミ生の研究テーマに基づく報告と討論。

（問題設定、分析概念への理解、資料の解釈を意識）

2. 開講曜時限

毎週木曜日10:10-12:00、教室は新年度初めに連絡、「春AB」＋集中ゼミ＋「秋AB」

*新型コロナウイルスの感染状況次第で、オンラインと対面を切り替えて行う場合があります。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

- ・2021年1月31日までに、A41枚で東アジア国際関係や中国に関する関心を教員に送付のこと。メールに順次、毛利からお返事します。特に選抜は行いません。毛利亜樹aki-mouri.fu[*]u.tsukuba.ac.jp [*]を@に変えてください。
- ・中国語の習得は必須ではありませんが、読めると出来るが増えます。ぜひ挑戦を。
- ・2022年3月まで育児休業中につき、見学は実施できません。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

・「東アジア国際関係史」「現代中国研究」や、その他国際政治にかかわる他の講義を併せて履修し、自分なりの理解を深めておくこと。

・ゼミ生になる方には、教員との連絡用にMLに登録していただきます。研究に関わる情報提供や事務連絡を行なっています。

国際法ゼミ

筑波大学人文社会系教授 吉田 脩

2022年度国際法ゼミの募集予定について

人文社会系 吉田 脩 (国際総合学類)

本ゼミは国際法全般について幅広く学ぶことを目的としています。また、原則として、3年次の履修者には、併せて「独立論文」も執筆していただくこととなります。

春AB学期には、国際法の基礎のみならず、国際関係学や法学のアプローチについて、理解を深めます。秋AB学期には、ゼミ生による発表・報告を中心に展開する予定です。

1. 対象者

国際総合学類3年次生又は同2年次の早期卒業予定者に限る。

2. 応募の要件

「国際法概論」及び「国際法Ⅱ」の既修者（※ただし、両方の科目につき、評価「A」以上の学生に限る。）

3. 応募期間と履修の可否

本年10月20日（水）までに吉田に直接問い合わせること。

授業における個別の学修状況や達成度、パフォーマンス等(例えば、授業に提出されたペーパー・レジユメの完成度や発表における質疑応答の内容)に鑑みて、個々の面談(口頭試験を含む。)や筆記試験等を割愛した上、入ゼミを許可することがある。

4. 聴講等

2.の応募要件を満たす志願者は、ゼミの聴講が可能である。詳細については、吉田に直接問い合わせること。

経済学分野

柏木ゼミ（中東・北アフリカ経済研究）

筑波大学人文社会系准教授 柏木 健一

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、発展途上地域の社会・経済に興味のある学生を対象とする。また、研究のアプローチとしては開発経済学の枠組による経済分析を中心とする。発展途上国の中でも特に、中東・北アフリカ諸国の経済発展、構造変化、社会変容、制度変化などを分析することで、同地域の経済発展・安定のメカニズムを検証する作業を進めたいと考えているが、参加者の問題意識、関心等に沿った幅広いゼミを展開したい。本ゼミでは、具体的には、①開発経済学や中東・北アフリカの経済に関する書籍、論文等を読み、討論、意見交換等を行うこと、②独立論文・卒業論文の中間報告、議論等を行うことを通じて、学生自身が中東・北アフリカの経済研究に関する問題を設定し、数量的データを用いた実証分析を通して、解決の具体的提案ができる能力を養うことを目指す。

2. 開講曜時限

春ABCおよび秋ABC：金曜日昼休みと3時限 11:30-13:30

3. 履修要件・入ゼミの方法

- (1) 必要となる予備知識：「北アフリカの経済と社会」「国際開発論」を履修していることが望ましい。また、数量的分析ができることが望ましい。参考書等を自分で読んで自主学習を進めるなど意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎する。
- (2) 参加要件：特に定めない。ゼミ参加を希望する場合、2022年1月31日（月）までに、①から③を含めて、A4×1枚にまとめて、emailで提出すること。
 - ①独論で取り組む研究に関する問題意識とその概要
 - ②3年次以降に長期の休学・留学予定の有無
 - ③3年次までに履修した（している）経済系の科目名

4. その他

- (1) 実施形式：書籍・論文等のレビュー、独立論文・卒業論文の進捗状況報告等
- (2) 出席：ゼミは原則として毎回出席とし、議論への積極的な参加を期待する。
- (3) 単位取得要件・成績評価基準：出席と発表によるゼミへの参画度によって評価する。
- (4) テキスト：主な参考書として以下の文献をあげる。その他、適宜紹介する。

Cammett, M., I. Diwan, A. Richards and J. Waterbury (2015), *A Political Economy of the Middle East*, fourth edition, Westview Press.

Wilson, R. (2013), *Economic Development in the Middle East*, Second edition, Routledge.

Todaro, M.P. and S. Smith (2011), *Economic Development*, Eleventh edition, Addison Wesley.

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮 (2019) 『計量経済学』有斐閣。

森田果 (2014) 『実証分析入門』日本評論社。

- (5) 連絡先：kashiwagi.kenichi.fn@u.tsukuba.ac.jp 内線：3982, 7424

- (6) 関連URL：<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000278>

<http://arenatsukuba.wordpress.com/>

黒川義教ゼミ（国際経済学・経済理論）

筑波大学人文社会系准教授 黒川 義教

1. ゼミナールの概要（新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性もあり。）

私の主な研究分野は国際貿易論、産業組織論、マクロ経済学、日本経済論である。現在は特に、
(1) 国際貿易と技術変化の賃金格差への影響、(2) ジョブローテーション vs. ジョブ特化、(3) 国際貿易の産業レベル産出量への影響、(4) 中間財とスキルの補完性、(5) 要素集約度の逆転に関する理論的・定量的・実証的分析に焦点を当てている。当ゼミでは、国際貿易論を中心に学ぶことができる。

① 本ゼミ（3・4年生合同、水曜5・6時限（仮））

<形式>

私の指導の下、レポーター形式で輪読、討論する。

<内容>

国際貿易の基礎理論やその応用に関するテキストを輪読し討論を行う。3年生のインゼミ論文や4年生の卒業論文の報告も行う。

<テキスト（仮）>

Feenstra, Robert C. and Alan M. Taylor. 2021. *International Economics 5th Edition (Paperback)*. Worth Publishers.

② ゼミ指定講義（3・4年生）

ゼミ指定講義を履修することで基礎固めを行う。

③ インゼミ論文・独立論文（3年生）

統一テーマの下、国別・地域別・時代別等で分担して、インゼミ論文・独立論文を書いてもらう。夏合宿や他大学とのインゼミ等で報告してもらう。

④ 合宿（3・4年生合同）

夏休みに本ゼミ合宿が行われる。

2. 入ゼミ試験

★ 筆記試験（英語で出題・解答）と面接（日本語）を2022年1月17日（月）に行う。

★ 筆記試験の内容はミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済学の基礎を試すものである（範囲は「国際経済論」、「初級ミクロ経済学」、「マクロ経済学概論」）。

★ 出願締め切りは2021年12月24日（金）とする。出願希望者は大学の公式メールで私にコンタクトして出願票を入手すること。

3. 2021年度ゼミHP（学生が管理）

<https://sites.google.com/view/kurokawaseminar2021/>

田中洋子ゼミ（グローバル経済研究）

筑波大学人文社会系教授 田中 洋子

1. ゼミナールの概要

田中ゼミは、工業化とグローバル経済の進展による社会や世界の変容を歴史的・国際的な視点から学ぶゼミです。社会経済システムの構造転換、企業と雇用、生活と価値観の変化、今後起こりうる経済的パラダイムの転換について、多くの文献を読んでゼミ生で討論しながら掘り下げて考えていきます。

2021年度のゼミでは「技術進歩と働き方の未来」というテーマで、デジタル経済化やインターネットの高速化が世の中に与えた、また与えつつある影響について、2000年代から現在までの20年間の変化を追いました。さらに技術発展が加速化させる変化に対応して社会経済システムがどう変わりうるかについて、ベーシック・インカム論やブルシット・ジョブ論、限界費用ゼロ社会や第四次産業革命などを取り上げ、ゼミ生全員で議論してきました。

2022年度のゼミでは、この現在進行形の重要テーマを引き続き取り上げるか、あるいは、環境問題が世界的に問うている資本主義体制の可否というグローバルな論争を取り上げる予定です。ゼミ参加者の希望に沿ってどちらかに決めていきます。

一年間のスケジュールとしては、春学期はテーマにそって文献講読と議論を集中的に行い、秋学期は一人一人の論文準備報告とそのサポートを行っていきます。今年の卒論のテーマには「台頭する中国コーヒー企業の研究——ネスレ・スターバックスとの比較を通じて」や「第四次産業革命期の日本の自動車メーカーにおける組織改革——トヨタ・日産を事例として」などがあります。

ここ一年半はコロナのために少ししかできていませんが、ゼミではさまざまな工場・現場見学とインタビュー、学園祭での学内研究展示と講演会、ゼミ後の夕食会や映画会、ゼミ卒業生のお話を聞く会、ゼミ合宿など、通常は非常に活発な活動を行っています。コミットメントの深いゼミだと思うので、そのような関係を希望する人だけ応募するようにしてください。

2. 開講曜時限

春ABおよび秋AB 火曜5・6限+α（ほかにゼミ合宿等イベント）

3. 履修要件・入ゼミの方法

- ・ゼミの内容や活動を理解した上で、ゼミ活動に積極的・主体的に取り組みたい人を歓迎します。
- ・ミスマッチが生じないように、すでに田中の授業をとっている人が望ましいです。
- ・ゼミ見学を希望する人は、10月後半から12月7日までにメールで連絡をとった上でゼミ見学にきてください。（当分の間オンラインで開催予定です）
- ・ゼミ参加希望の人は遅くとも12月14日までに連絡をください。そこで指定した応募書類を10日以内に提出してください。12月下旬～1月前半までに個別に面接を行ってゼミ生を決定します。

4. 連絡先 [tanaka.yoko.ft\[at\]ju.tsukuba.ac.jp](mailto:tanaka.yoko.ft[at]ju.tsukuba.ac.jp)

内藤久裕ゼミ（公共経済学）

筑波大学人文社会系准教授 内藤 久裕

1. ゼミナールの概要

このゼミの目標は、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量分析を総合的に学び、経済をバランスの取れた目で見える力を養うこと、ゼミでの学生間でのコミュニケーションを通して、対象に対する理解を深める術を学ぶことです。私は、現在、マクロ・ミクロ・計量分析の手法を使って、途上国の人的資本蓄積、乳幼児死亡率の決定要因、HIVの人的資本への影響、医療、先進国での貯蓄、労働市場、教育、企業投資などを分析することに興味があります。ゼミでこのようなトピックを学習し、これらのトピックに関して卒論・独論を書きたい人にこのゼミは向いているでしょう。

私のゼミの特徴は、学生間の学びを非常に重視していることです。ゼミでは、サブゼミ、メインゼミを通して、ゼミの同級生と統計学、計量経済学、応用経済学を深く学びあえるような環境を作っていきます。3人よれば文殊の知恵と言いますが、最初は分からなくても、学生間で話し合っているうちに理解が深まることが多くあります。皆が分からないときにどのように進めるか、そのようなスキルは社会に出てからも非常に重要と考えています。

ゼミでは、2年生の12月から統計学・計量経済学のサブゼミを行います。サブゼミでは学生を中心に月曜日2時間目に集まって勉強してもらいます。ときどき私も参加したり、宿題を出したりします。

本ゼミは、3年の4月から、水曜日のお昼3時間目・4時間目を用いて行います。初めはマクロの経済成長の本を輪読し、経済発展のメカニズムを理解したあと、応用経済学の面白い論文を読んでゆきます。（途上国の教育の経済発展への因果関係の分析、先進国における国際貿易が賃金格差に与える影響の分析、食糧援助が紛争に与える影響の分析、人口増加と経済成長の関係の分析など）これらの論文は、非常に論争を呼んだ論文です。また、それ以外にも労働市場、人的資本蓄積のメカニズムを分析した個別の論文を輪読してゆきます。この間も、月曜日2時間目の計量経済学のサブゼミは、夏休みまで続けます。

サブゼミは必修なので、12月から月曜日2時間目にサブゼミに出席できない人は応募しないでください。

2. 開講曜時限

本ゼミ：水曜昼休みと3時間目（週によっては、3時間目と4時間目）

サブゼミ：月曜日2時間目（統計学・計量経済学の学習をおこないます。）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

マクロ経済学を履修していることが非常に望ましいです。

ゼミの学生の多様性を確保するために成績だけでは選抜しません。

明るさ、やる気を重視します。詳しい応募要項はゼミのホームページを参照してください。

11月5日応募書類提出締め切り

12月6日面接

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

応募に当たっては、以下のHPを見て、志望書を作成すること

http://www.dppe.tsukuba.ac.jp/~naito/teaching_web/seminar/seminar_announcement2016.htm

中野優子ゼミ (開発経済学) 木曜4-5限

筑波大学人文社会系准教授 中野優子

私は、途上国の人たちがどうすれば貧困から脱け出せるかを考える開発経済学という分野を専門にしています。主にサブサハラ・アフリカの農業を対象としたマイクロ実証分析が専門です。(詳細は下記学類HPの教員紹介記事を参照。)ゼミでは、サブサハラ・アフリカに限らず、途上国の開発問題、日本の社会問題を経済学に基づいて分析します。

http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/kyouin/01_04.html

活動内容

1) 開発経済学のテキストのレポーター形式の輪読および討論 (春学期)

例: Taylor and Lybbert (2015) Essential of Development Economics. University of California Press.

アセモグル・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか』早川書房、2013年。

2) 独立論文および卒業論文の報告と指導 (秋学期)

3) 夏季集中ゼミ (1日)

入ゼミ条件

- 「開発途上国における諸問題」を履修済み、あるいは入ゼミ後に必ず履修すること。
- ゼミ見学は適宜行っています。見学を希望する場合は担当教員にメールして下さい。
- 主ゼミ生としての受け入れは5名程度の予定です。希望者多数の場合は、レポート、面接、成績、および担当教員の専門分野との適合性に基づいて選考を行います。
- サブゼミ生としての受け入れも行います。サブゼミ生はゼミに参加し、論文についてもゼミ発表での口頭での指導は行いますが、論文執筆の添削は行いません。
- 入ゼミ希望者は、志望動機と発展途上国の開発(または自分の卒業論文のトピック)に関するレポートを2022年1月17日までにメール [nakano.yuko.fn\[at\]u.tsukuba.ac.jp](mailto:nakano.yuko.fn@u.tsukuba.ac.jp) [atを@に置き換え]までに提出して下さい。追って、面談日時を連絡します。その際に成績表を持参して下さい。
- ゼミには毎週参加することと、入ゼミ前後に「開発途上国における諸問題」、「計量経済学」およびその他の関連授業を積極的に履修し、経済学的な考え方を身に着けることを入ゼミの条件とします。途上国の開発問題及び日本の社会問題に興味のある、意欲ある学生の参加を歓迎します。

Kokusaigaku-Seminar(s) (BC13114) and (BC13124)
Abdul Malek Seminar on Empirical Development Economics
Mohammad Abdul Malek (Contact: abdul.malek.ft@u.tsukuba.ac.jp)
Associate Professor (Development Economics and South/Southeast Asian Economics)

1. Course description

This seminar is conducted for junior students to write an independent thesis and for senior students to write a graduation thesis. The general objective of the seminar is to give the students a diverse perspective on international development and motivate them to test acceptability and adoptability of different technological and institutional/policy innovations in low-income, developing and developed countries' context. More particularly, the students will learn how a good research paper can be written from the selection of research topic, writing the concept note, analyzing data using statistical software (for example, STATA), developing the discussion, etc. in the field of empirical development economics. In consultation with the instructor, the students can choose any issue/innovation/topic for their research from broad ranges of topics in the contemporary global context with particular attention to Asian Economies including Japan. Students should be able to find appropriate data or conduct a short survey for answering their research questions. Econometrics approach to analyse the data (cross section or panel data or time series) should be utilised. Students will be selected as sub-seminar members including with Graduate Students-they are expected to give verbal comment on other researches to be presented in the seminar.

2. Prerequisites and grading

-Many theories and tools need to be used from Economic Development, econometrics, social science survey methodology and data management. So, you are strongly advised to take those courses if you already did not take so. Following texts/resources are recommended :

- Janvry AD and Sadoulet E(2016). Development Economics- Theoy and Practice. Routledge.
- Jeffrey M. Wooldrige (2019). Introductory Econometrics: A Modern Approach.
- Handbook on Impact Evaluation- Quantitative Methods and Practices. Shahidur R. Khandker, Gayatri B. Koolwal and Hussain A. Samad. 2010 The International Bank for Reconstruction and Development / The World Bank.
- Online STATA resources.

-There are no prerequisites, but students should be prepared to use basic econometrics/ statistical techniques using STATA, bring their notebook computers and be comfortable of making presentation in English in front of a small group.

-Grading is based on the active participation (attendance and performance/attitude during the seminar) and quality of the submitted independent/graduate thesis. Absence without notice may result in a failing grade.

3.Semester, period and venue

Spring/Fall AB : Wednesday 1-2 (Ms Teams with code : k0l6b9v)

4.How to apply and selection schedule

- You can join online to my seminar via MS teams for initial introduction at any Wednesday about 10:00 am (Oct 16-Nov 15 2020) as mentioned above.
- Dec 1- Dec 25- Deadline for applications by email (abdul.malek.ft@u.tsukuba.ac.jp) with subject title kokusaigaku_independent/graduation_thesis_your name (**Don't forget to write your motivation of your topic/research problem within 50-100 words as an email text**)
- Dec.26 – January 15: Selection period by the instructor. In case of large number of applications to be received, I will call for an interview. Academic grades and topic suitability will also be considered.
- Feb. 2 Notification of selection results.

5. Seminar website (under construction to be managed by Students):

To know more about the instructor, please visit: <https://trios.tsukuba.ac.jp/en/researcher/0000004222>

MOGES Seminar in Development Economics & Policies

MOGES Abu Girma, Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

Course Description: This seminar explores the issues of economic growth, income distribution, economic policy, income inequality, poverty, social wellbeing and vulnerability from an interrelated perspective. Emphasis will be made on specific topics on the basis of research topics of students. The process and challenges of economic development are discussed with historical and contemporary contexts. Students will have opportunities to examine the different and competing theories of economic development and their economic policy recommendations to address pressing economic, social and political problems in developing countries.

Objective: The main objective of the seminar is to equip students with the analytical skills and research methods in development economics and policy issues. The seminar discusses theories, policies, and country experiences to understand major issues in development economics and policy.

Approach: This seminar emphasizes on participatory approach of students in which selected economic development issue in developing and developed countries are discussed. The seminar involves extensive reading and discussion so as to expose students to diverse ideas and methodologies. It also helps students prepare themselves to conduct research on issues of their choice.

Contact Information and Seminar Room: Please contact the teacher by e-mail to express interest to join the seminar. Screening, interview and decision follow afterwards.

E-mail: agmoges@gmail.com

Venue: Seminar Room A207 Social Science Office Building

Time: Tuesdays 18:30 ~ 20:00pm

Seminar Recruitment for 2019-2020:

If you are interested to join the seminar, please contact me by e-mail at agmoges@gmail.com. The deadline for expression of interest is December 15, 2019. Decision for acceptance will be announced by early February, 2020.

Zhengfei Yu Seminar (Selected Topics in Program Evaluation)

Zhengfei Yu, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

Program evaluation is about discovering and measuring the causal effects of programs or policy interventions. This course is intended to equip 3rd-year students with popular strategies and approaches in empirical researches using cross sectional or panel data. Main topics include: elements in causal inference, randomized controlled trials (RTC), permutation test, differences-in-differences (DID), the sample selection model, instrumental variables (revisited from a perspective deeper than that in BC12061), propensity scores, regression discontinuity (RD) designs and distributional/quantile treatment effects.

A reading list will be provided by the instructor at the beginning of the course. There is no required textbook.

Participating students are expected to present the papers from the reading list. The instructor will give lectures when necessary. Grades are based on attendance (20%), presentation (30%) and a term paper or assigned projects (50%). Students can choose either a term paper or assigned projects. Assigned projects are based on datasets used by published papers. Students are asked to replicate the main results of these papers and answer related questions.

2. Semester, period and venue

Semester: Spring and Fall

Time: Thursday, period 4

Venue: 3K326

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

Prerequisites: Statistics (BC12031 or equivalence) and Econometrics (BC12061 or equivalence)

Selection schedule:

Oct. 20 -- Dec. 10 Contact the instructor by email and arrange an appointment.

Dec.15 -- Deadline for applications by e-mail.

Dec.16 -- Feb. 1 Selection period by the instructor.

Feb. 2 Notification of selection results

4. Additional information

E-mail: yu.zhengfei.gn@u.tsukuba.ac.jp

Office: Jinsha A305

文化・社会開発分野

ことばと文化ゼミ（井出里咲子）

筑波大学人文社会系准教授 井出 里咲子

1. ゼミナールの概要

ことばと文化ゼミでは、学問としての言語人類学・社会言語学の理論と方法論を学びながら、ことばやコミュニケーションを切り口として異文化理解、そして現代社会の問題を考える手法を学びます。例えば、我々が普段何気なく行っている会話やメールのやり取りにみられる人間関係の構築方法や、言語教育、メディアの言説に反映される偏見といったテーマまで、ことばを介して実践しているもの全てが研究対象となります。一方、国際総合学類には当該分野のカリキュラムとしての積み重ねがないので、このゼミでは独学でさまざまな手法を学ぶ覚悟が求められます。

ゼミでは春・秋学期を通して、各自の論文のテーマの選定、フィールド調査やデータ分析の実施、論文の執筆を行います。その他に専門知識や方法論を学ぶための文献購読と発表も随時行います。不定期ながらゼミプロジェクトを実施することもあります。過去には「ギャル系雑誌のテキスト分析」、「出会いの挨拶のフィールドワーク」、「震災体験の語りの収集」、「つくば市HPの＜やさしい日本語化＞への提言作成」、「人狼ゲームのビデオ録画と分析」を行いました。昨年度は「#BlackLivesMatter」におけるスピーチの文字化と分析を行いました。過去のゼミ生の卒論テーマには「日本社会におけるカタカナ語の意味機能」、「現代中国における普通話制定の過程」、「新聞報道が語る福島原発事故」、「タイ社会の名付けとあだ名」などがあります。

言語文化への関心と問い、また／もしくは、具体的な研究テーマが当ゼミと合致しているかが選考のポイントとなります。尚、ゼミ生は、3, 4年次の間に「言語人類学」（井出）、人文学類の高木智世先生、日目の澤田浩子先生のクラスなどを履修するように努めてください。

その他詳細は<https://ide-risako.jp/seminar/>で確認してください。

2. 開講曜時限

- (1) 「春 AB」＋「秋 AB」＋集中「春 C」（夏合宿）＋集中「秋 C」（個別面談指導と発表会）
- (2) 「春 AB」「秋 AB」は、火曜 3・4 時限に、対面、オンライン、またはハイブリッド方式で実施します。

3. 履修要件・入ゼミの方法

- (1) ゼミ説明会～12月末：メール (ide.risako.gm@u.tsukuba.ac.jp) に連絡の上、ゼミを体験しにきてください(授業が重なる場合は井出に面談してください・面談アポの取り方は4.を参照)。
- (2) 1月10日締め切り：入ゼミ希望者は、①自己紹介と参加の動機、②二年間をかけて取り組みたい研究テーマとをそれぞれ A4 1, 2枚に記したレポートを井出宛て送ってください。1月中旬までにゼミ生を5名程度選抜し、メールで連絡をします。
- (3) 新ゼミ生は1月末もしくは2月初旬に開催の「ことばと文化ゼミ卒論・独論公开发表会」に参加してください。

4. その他

オフィスアワーは火曜日、木曜日5時限目で、オンラインまたは人社棟B501の井出研究室にて実施します。アポを取る際は井出にメールをするか、下記の秋学期オフィスアワー予約・調整表をお使いください。

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dkQgshH9UoSFi3Vtr3Sox0bAxbq6WYixSqJ87tWY6Y/edit?usp=sharing>

柴田政子ゼミ（比較国際教育）

筑波大学人文社会系准教授 柴田 政子

1. ゼミナールの概要

教育に関わる社会の諸問題について、国際的比較の視点をもとに学際的に考察する。従って、テーマは学校教育・公教育に限らず、教育を広義に解釈し、人の育成や学びに関する社会の諸側面を視野に入れる。

研究の仕方、論文の書き方、およびディスカッションを主な習熟目標と活動とする。ゼミは、論文進捗状況など各構成員の研究発表をもとにディスカッション形式で行う。

2. 開講曜時限

水曜日 4時限

「春 AB」+「春 C」集中+「秋 AB」+「秋 C」集中
現在大学の指針に沿って、オンライン（Teams）で行っています。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

上記の通りディスカッションを主な活動としているので、議論に積極的に参加し、ゼミメンバーの発表に建設的なフィードバックを提供するかたちでの履修を高く評価します。

履修要件ではありませんが、「国際教育学」and/or「日本教育概論」を履修し、基本的な教育学の概念について理解していることが望ましいです。

少なくとも1回は体験ゼミに参加することが必要です。

体験ゼミが可能な期間は、ゼミ説明会終了～12月最終週。

希望者は、A4紙1枚に、

(ア)氏名、学生番号

(イ)体験希望日（第一希望日、第二希望日、第三希望日）

(ウ)研究予定テーマ（仮題）

(エ)研究予定内容の概要（300字程度）

をまとめ、下記メールに添付して送りってください。

人数の調整をし、参加日を追って連絡します。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

shibata.masako.ga@u.tsukuba.ac.jp

寺内大左ゼミ（環境人類学／環境社会論）

筑波大学人文社会系准教授 寺内 大左

1. ゼミナールの概要

このゼミでは、環境人類学／環境社会論について学びます。文献購読を通して理論や方法を学ぶと同時に、フィールドワークを実施し、環境と社会の共生のあり方や環境保全・開発のあり方を検討します。環境人類学／環境社会論では多様なテーマが研究対象になります。どのようなテーマが対象になるのか知りたい人は、鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房 (<https://www.minervashobo.co.jp/book/b284588.html>) の「目次」を見るようにしてください。この目次にあるようなテーマで研究したい学生を受け入れます。研究対象地は国内であっても、海外であっても構いません。ゼミの時間では、基礎文献の輪読、グループワーク、各自の文献調査・フィールド調査の結果発表と議論を行います。文献調査・フィールド調査はゼミの時間外に各自で行ってまいります。夏休み、春休みにもフィールド調査を行ってまいります。

2. 開講曜時限

春ABC：金曜5，6時限、対面もしくはオンラインで実施

秋ABC：金曜5，6時限、対面もしくはオンラインで実施

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件

履修要件は特にありませんが、フィールドワークを行いたい人／行える人が基本となります。フィールドに一人で赴き、一から現場の人々と関係を築くことができなければなりません。コミュニケーション能力や社会的常識（礼儀、メールのやり取りのマナーなど）が求められます。

入ゼミの方法

2022年度の新3年生を最大6名受け入れます。入ゼミの方法は以下の通りです。

(1) ゼミ見学

2021年度のゼミも金曜5，6時限にオンラインで実施しています。10月中旬に教員にメールでアポイントメントを取り（メールの件名は「ゼミ見学希望」とすること）、11月中旬～12月末のゼミを見学してください。

(2) 入ゼミ希望書の提出

A4紙2枚以内で次の1～3を書き、2022年1月12日（水）に教員にメールで送ってください（メールの件名は「入ゼミ希望」とすること）。参加申し込みの受付はこの日のみです。

1. 研究テーマとその概要（内容がしっかりしている人を優先的に受け入れます）
2. 3年次、もしくは4年次に長期の休学・留学を予定しているか否か
3. 博士前期課程（修士課程）に進学する可能性があるか否か

選抜スケジュール

(1) ゼミ見学、(2) 入ゼミ希望書の提出を行ったら、1月24日（月）までに教員が受入可否の結果をメールで通知します。人数の関係で受け入れを断る場合があることを了承してください。なお、参加許可のメールに対して期日までに反応がなかった場合、キャンセル扱いとします。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

教員連絡先：寺内大左（[terauchi.daisuke.gt\[at\]ju.tsukuba.ac.jp](mailto:terauchi.daisuke.gt@ju.tsukuba.ac.jp) [at]を@に変える）

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）

筑波大学人文社会系教授 関根 久雄

1. ゼミナールの概要

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）は次の2つのテーマのいずれかに関心をもつ学生を募集します。

- ① いわゆる「途上国」と呼ばれる国々で展開される（されようとしている）社会開発や開発援助の分野に人類学的視点からアプローチし、開発の意味やより「効果的な」開発とは何かなど、「文化」の視点を加味した開発、援助のあるべき方向性について。
- ② 広く現代世界（日本を含む）で生起されるさまざまな社会現象（①以外の現象）に対し、文化人類学的視点からアプローチする。

2. 開講曜時限

- (1)春AB、秋AB：火曜 6限～19:30頃まで（春、秋ともに終了時間は決まっています）。
- (2)春C集中（7月前半）＋秋C集中（12月後半）

3. 履修要件・入ゼミの方法

2022年1月11日（火）午前0:00から参加申し込みの受け付けをおこないます。受付は当日のみです。2022年度の新3年生を「5名」程度受け入れる予定です。ただし、長期の留学・休学を予定している人については考慮します。

A4紙1～2枚程度に次の(1)～(3)の内容を書き、上記の指定日に**sekine.enikes[at]gmail.com**へ送ってください（[at]を@マークに変えてください）。その内容に基づいて選考しますが、同レベルの場合はGPAを参考にします。

- (1) 研究テーマ（題目）とその概要（しっかりと内容を吟味すること）
- (2) 3年次に長期の休学・留学を予定しているか否かの別
- (3) 2年次までに履修した人類学系、社会開発系の科目名

4. 選考スケジュール

・今年度も新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、ゼミ見学を行いません。関根ゼミについては直接教員に問い合わせるか、現役ゼミ生（3年、4年）に問い合わせ、内容や雰囲気について尋ねてください。

・ゼミ申し込み日：1/11（火）→担当教員による選考、1/15（土）までに結果通知（メール）。なお、担当教員から出される「参加許可」のメールを受信し、そこに書かれている期日までに反応しない場合は、キャンセル扱いとします。なお、上記(1)～(3)について、個別に面談（オンラインあるいは対面）を行い内容を確認する場合があります。

2022年4月時点で国際総合学類の3年生であれば誰でも応募できますが、研究テーマや募集人数の関係で受け入れを断る場合もあります。また、男女比を考慮する場合もあります。現在のゼミ生数の関係で、新4年生の新規受け入れは行いません。

問い合わせ：関根久雄（sekine.hisao.gm@u.tsukuba.ac.jp）、あるいは現役ゼミ生（3・4年生）

社会開発実証研究ゼミ（松島みどり）

筑波大学人文社会系准教授 松島 みどり

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、社会開発の範囲として扱われるテーマのうち、特に人々のウェル・ビーイングに関わる分野について社会政策や制度がどのように影響を与えているかを、研究対象となる人々が生きている社会環境、文化を鑑みた上で定量的に分析することに興味をもつ学生を募集します。ゼミは、論文レビュー、論文の進捗状況報告等のゼミ生の発表をもとにしたディスカッション形式で実施します。

2. 開講曜時限

春 AB+秋 AB+集中（木曜日 昼休みと3限）

※ただし、ゼミ生の時間割を勘案（要相談）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：以下を満たしていることが条件となります。

- (1) 統計学を学んでいる、または今後学ぶことに抵抗がないこと（入ゼミ時点では、特に統計学の知識はなくても問題はありません。）
- (2) 主体性を持って取り組めること

入ゼミの方法：

1. 面談（オンラインも可）にお越し下さい（メールにてアポイントを取ってください）
2. 面談を行った上で、以下の2点についてA4 2枚以内でまとめ、E-mailにて提出してください（メールの件名は「2022年度入ゼミ希望」としてください）。

(1) 現在興味をもっている研究テーマについてまとめたもの（英語でも日本語でも構いません）。

(2) 簡単なご自身の紹介と、今後休学や留学の予定がある場合は、留学先と期間を明記

※ 面談は、みなさんのニーズとゼミ内容の不一致を防ぐためのものですので、出来る限りお越し下さい。ただし、留学などの理由で面談が不可能な場合には、その旨ご相談ください。

選抜スケジュール：

10月～12月10日：面談等受付

12月17日：ゼミ参加希望受付締め切り(E-mailにて受付け)

12月24日：選抜結果連絡

4. その他

E-mailアドレス：matsushima.midori.gb@u.tsukuba.ac.jp

ゼミ選択のための情報として、担当教員の研究業績などその他の知りたいことがある場合は、その旨、E-mailにて連絡してください。

情報・環境分野

岡ゼミ (ウェブサイエンス)

筑波大学システム情報系准教授 岡 瑞起

1. ゼミナールの概要

岡研究室では、AIやデータサイエンスの技術を社会で活用するための研究を行っています。特に、より豊かなコミュニケーション実現のための技術開発と社会応用を進めています。「AIはExcelくらい誰もが使うツールとなる」と言われています。実際、Excelと同じように、AIも多くの人が扱うことができる一般的なツールになりつつあります。誰もがAIを気軽に使えるようになった今、AIを作る技術だけでなく、「AIをどう使いこなすか」も重要な課題となっています。そして、そこには、文系の人材が求められています。本ゼミでは、文系の人でも最新のAIやデータサイエンスを使いこなせるために必要となる知識や技術を学び、実践の場でどう活かせるかを考えていきます。

研究テーマ例：

- ・「1-on-1」ミーティングの効果測定とフィードバックに関する研究
- ・名刺データを使ったビジネスコミュニケーションに関する研究
- ・アバターを使ったオンラインミーティングの有効性に関する研究
- ・小売店舗での実験を通じたマーケティングデータ分析

2. 開講曜時限

- ・毎週火曜日15:15-18:00 (都合により、開講曜日・時間に変更になることがあります)
- ・個別ゼミ 日時相談の上、適宜実施

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

- ・定員：各学年2名。
 - AI やデータサイエンスの社会応用に興味があること。

- ・選抜スケジュール

研究室説明会 (オンライン、参加自由)

- ・1回目10月15日 (金) 12:15-13:30

- Zoom:

<https://us02web.zoom.us/j/85704911492?pwd=aEV4NE5LMTR6YVY1cmRzaTB6M1QrUT09>

- ・2回目10月22日 (金) 10:10-11:25

- Zoom:

<https://us02web.zoom.us/j/85299943198?pwd=a3AxTU1QZ1orOGZ1SHpnRlh1M0I0dz09>

・11月：オープンゼミ (オンラインでゼミを開催しています。参加希望者はzoomリンクを贈りますのでメールで連絡してください)

- ・10月～12月末：教員訪問期間 (要メール連絡)

- ・2月中旬：選抜結果連絡

4. その他 (例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等)

ゼミホームページ：<http://websci.cs.tsukuba.ac.jp/> 連絡先：mizuki@cs.tsukuba.ac.jp

- ・入ゼミ希望者はメールで連絡をとってください。面接を実施します。

奥島ゼミ（環境経済学、環境政策）

筑波大学システム情報系社会工学域 准教授 奥島 真一郎 (okushima@sk.tsukuba.ac.jp)

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、経済、環境、エネルギー、政策分析に関わるテーマを主題とします。担当教員は環境経済学が専門ですが、開発経済学や公共経済学など経済学の他分野、環境社会学や環境倫理学など環境と経済に関する他ディシプリンの研究、経済思想や日本経済論などのテーマでもOKです。

ゼミでは、「教養」と「専門性」双方の涵養を目指します。前者については、①新聞を用いた時事問題に関するディスカッション、②社会科学の古典の講義・輪読、また後者については、③環境問題に関連する書籍・論文を用いたディスカッション、④プロジェクト研究、などを予定しています。本ゼミにおいては、なるべく早い時期から、自ら関心があるテーマを決定し、具体的な調査・研究を進めていくことを目標とします。現代社会において必須である、プレゼンテーション技術（説得 技術）の育成も重視します。

大学生活は1分1秒が貴重であり、人生の中で文字通り“invaluable”な時期だと考えますが、大学時代にゼミ等で「自ら学ぶ習慣」、「自ら考える習慣」を身につけることは、今後の長い人生において極めて重要であると考えます。このような問題意識から、本ゼミでは、教養と専門性を兼ね備えた、真に主体性のある人間を目標に、共に切磋琢磨したいと考えています。そのため、自ら問題意識をもった、受身でない、意欲的な人材を歓迎します。

2. 開講曜時限

春 AB+秋 AB+集中

火曜日または木曜日の5時限、6時限、時間外（その年のゼミ生の都合により調整可）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

ゼミ参加者に期待する要件としては、上述の観点から、第一に①主体性、意欲、そして②関連分野の基礎知識があげられます。さらに、思想的なことに関心があること、物事を多面的に考えることができる人を一層歓迎します。もちろん、担当教員の授業をすでに受けていることが望ましいのはいうまでもありません。それは授業が、担当教員の学問的関心や雰囲気を知るための最も良い機会だからです。

人数は、各学年3名程度を予定しています。理由は、ゼミにおける学生の主体性を保証するためにはこのぐらいの人数が限界だと考えるからです。

選抜方法は、原則として、ゼミ見学、面談の上、課題レポート等による選抜、とします。具体的な手順としては、2年次10月のゼミ説明会の後、①e-mail等によるゼミ見学会参加・担当教員との面談の予約（11月中旬まで）、②ゼミ見学会参加（11月中旬）後、課題提出（12月初旬）、担当教員・ゼミ生との最終面談（12月中旬）、③選抜の結果OK、④正式な参加申請

（12月末まで）、⑤担当教員による内定（12月末）、となります。詳しくは、2年次10月の国際総合学類ゼミ説明会で説明しますので、本ゼミ希望者は必ず参加してください。

4. ゼミOBOGからの声

本ゼミで過ごした数年間は、卒業後に進学した University of California, Davis 大学院や現在の職場であるタタ財団（Tata Trusts）で活躍するための土台を築いてくれました。時事問題についてのディスカッションと古典の輪読を通じて幅広い教養が身につくとともに、長期的な視点から現代の環境問題、社会問題を分析し、議論する力や論文にまとめる力を磨くことができました。多種多様なバックグラウンド、興味関心をもつゼミ生との日々の活動は、包括的な視点から研究テーマを掘り下げ、将来の進路についても考える機会を与えてくれました。主体性が重んじられる奥島ゼミでは、ディスカッションの準備や合宿の計画、独立・卒業論文の執筆まで、学生が自ら率先して取り組んでいくことになります。ここでの経験は、高い自己管理能力が求められるアメリカの大学院や職場で生き残る上で、大きな支えになりました。そして、何事にも妥協を許さないゼミ仲間は、在学中のみならず、今でも互いに切磋琢磨できる大きな財産です（ゼミOB、26期）。

亀山ゼミ（適応情報処理研究室）

システム情報系 教授 亀山啓輔

1. ゼミナールの概要

当研究室では環境や状況に適応してアルゴリズムやモデルを変更していく情報処理様式について研究を行っています。人間をはじめとする生物には、限られた情報処理資源を利用して、試行と失敗を繰り返し、時には世代を超えて問題を解決していく能力があります。このようなプロセスを「適応情報処理」様式にとらえ、基盤となる学習、最適化、信号処理の理論をふまえて、適応的なパターン認識、信号・画像処理、検索アルゴリズムを提案、実世界の問題を解決していくための研究を行っています。

当研究室では、(a) 機械学習、パターン認識、画像工学に関連する英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」、(b) 機械学習に関連する基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」、および(c) 一人一人異なる研究テーマに関する教員との個別ディスカッション(通年隔週)の3つを中心に研究を進めます。

2. 開講曜時限

- (a) 研究ゼミ 月曜日 18:15 – 20:00, @ 3E102 or online
- (b) 基礎ゼミ 火曜日 18:15 – 20:00, @ 3E102 or online
- (c) 個別ディスカッション 日時相談の上、隔週実施 @ 3F908 or online

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

機械学習、データ解析、メディア処理のいずれかに興味があり、学類開講の数理科学I, II, 情報科学I, II, 統計科学, 情報メディア概論, データ解析等の科目の扱う範囲の知識が(それなりに)ある人が適しています。プログラミングスキル, または修得する意思は必要。英語で書かれた論文を読むことにアレルギーのないこと。定員: 各学年2名

当ゼミでの専門ゼミナール履修を希望する人は、下記連絡先にメールで連絡をください。面談を行い希望する研究テーマについて聞き取りを行います。10月, 11月の研究ゼミ, 基礎ゼミにはゲスト参加を歓迎します。10月中に, 国際総合学類生, 情報科学類生向けの研究室説明会を実施します。スケジュールについては当研究室のウェブページを参照してください。

選抜スケジュール

- 10月-11月: ゼミ見学, 研究ゼミ&基礎ゼミゲスト参加期間
- 12月前半: 教員による面談期間
- 12月末: 次年度ゼミ生を決定

4. その他

Web: <http://adapt.cs.tsukuba.ac.jp>,

E-mail: keisuke.kameyama@cs.tsukuba.ac.jp

Adaptive Information
Processing Group



白川ゼミ（河川・水環境）

筑波大学システム情報系准教授 白川 直樹

1. ゼミナールの概要

人類は川に恵みを受け、川を畏れながら文明を発展させてきました。現代社会においても、人間の生活や産業にとって川は重要な役割を果たしています。

本ゼミは、川と水環境に関する次のような話題を扱います。

- [1] 河川文化と地域づくり
- [2] 防災
- [3] 河川環境・生態系
- [4] 経済評価

2. 開講曜時限

春ABC+秋AB+集中

毎週2コマ開講します。うち1コマは、大学院生や工学システム学類の学生と合同で、各自の研究発表と討論、ワークショップ（グループワーク）などを行います。もう1コマは、似た研究テーマを扱っている少人数グループで、各自の研究内容に関する突っ込んだ議論を行います。

令和4年度の開講曜時限はゼミ生の状況を聞いて決めます。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件は特にありません。文系・理系は問いません。数学が苦手でも大丈夫です。

将来、河川や水環境の分野に関する仕事をしたい（公務員、コンサルタント、インフラ、NPO、その他）という気持ちがある学生、あるいは同等の真剣さを持った学生が対象です。

特に『将来は技術職に就きたい』（現在文系でも）という希望がある学生には、理系科目の学修計画や補講など全面的にバックアップしますので相談してください。3年次から真面目に勉強すれば十分に実現可能です（ただしその場合は大学院進学がほぼ必須になります）。

入ゼミを希望するには、まず教員へ連絡してください。面談を行ったのち、ゼミ参加希望理由を文書（メール）にて提出してもらいます。希望人数が多い場合や希望理由にミスマッチがある場合を除き、選抜は行いません。

2021年12月24日（金）：面談期限（遅くともこの日までに時間を決めて面談すること）

2022年1月12日（水）：ゼミ参加希望受付締切

2022年1月20日頃までにゼミ参加可否を教員から通知します。

4. その他

面談、質問など：shirakawa.naoki.gf@u.tsukuba.ac.jp

研究室：3F105（第3エリアF棟1階）アポなし訪問可

鈴木ゼミ（多知覚メディア処理）

筑波大学システム情報系准教授 鈴木大三

1. ゼミナールの概要

マルチメディア機器，ブロードバンド網，人工知能（AI）技術などの発展によりIoT時代が到来しつつあります。膨大な知覚メディア（音・画像・映像などの人間が知覚できる情報をデータ化したもの）が頻繁にやり取りされる中，それらに対するユーザの要求品質が多様化し，様々な知覚を可能とする「多知覚メディア」が注目を集めています。本研究室ではそのような多知覚メディア処理に関する研究に関して，信号処理技術を基盤として要素技術から応用技術まで幅広く進めています。（学生の皆さんが行う研究テーマについては適宜相談に応じます。）

主な活動としては，教員とマンツーマンの「個別ミーティング」，論文紹介・進捗報告・発表練習を主とする「研究ゼミ」，研究に関係しそうな教科書・参考書の輪読を主とする「基礎ゼミ」，成果次第で国内外発表のための「論文執筆」や有志での「合宿・勉強会」などを行っています。情報科学類および情報理工学位プログラムの学生と共に活動します。また，状況に応じてオンラインツールを活用します。

2. 開講曜時限

- ・ 日常的なコアタイム：ありませんが，研究室を有効活用してください@3F1000-2（学生室）
- ・ 個別ミーティング：日時相談の上，2～3週に1回のペースで実施@SB1107（教員室）
- ・ 研究ゼミ：毎週火曜日10:30～12:30@SB1112（教室）
- ・ 基礎ゼミ：学生主体で不定期に行っています

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件は特にありませんが，「研究テーマに興味がある」「自己管理がしっかりできる」「協調性・協働性がある」「報告・連絡・相談がしっかりできる」方を募集します。また入ゼミ後は，信号処理・線形代数・微積分・プログラミング（MATLABやC言語）などの知識が大切になってきますので，少しでも身に付けて置くと良いでしょう。

【選抜スケジュール（説明会→面談→決定）】

- ・ 10～11月：説明会およびゼミ見学期間（詳細は研究室HP参照）
- ・ 11～12月：教員による面談期間
- ・ 12月末：次年度ゼミ生を決定（定員：各学年2名まで）

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

- ・ Eメール：taizo@cs.tsukuba.ac.jp
- ・ 個人HP：<http://www.cs.tsukuba.ac.jp/~taizo/>
- ・ 研究室HP：<https://www.sites.google.com/view/wmplab/>

高橋ゼミ（ヒューマンコンピュータインタラクション）

筑波大学システム情報系准教授 高橋伸

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)に関連する研究を行います。HCIは利用者の側に立った情報技術、社会における情報技術のあり方を探る研究分野です。

セミナーにおいては、ヒューマンコンピュータインタラクションやソーシャルコンピューティングに関わる基礎的文献調査、評価実験などを中心に研究を行います。まずは関連する文献や国際会議論文を多数読むところから始め、自分の興味のある対象を見つけてもらいます。ゼミは基本的に週1回で、曜日時間はメンバー決定後の要相談となります。

2. 開講曜時限

春 ABC 秋 ABC の期間に週1回1～2コマ相当時間のゼミを行います。開講曜時限は参加者のスケジュールを調整して決定します。

3. 履修要件・入ゼミの方法/選抜スケジュール

履修要件は特にはないですが、ゼミは毎回出席が義務であり、無断欠席が続く場合は単位取得を認めません。ゼミ参加希望者には面接を行うので、メールで連絡してください。

選抜スケジュール：

10月～11月末：ゼミ見学・面談等受付

12月：ゼミ参加希望受付

12月末：選抜結果連絡

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

メール：shin@cs.tsukuba.ac.jp

HP：<http://www.iplab.cs.tsukuba.ac.jp/~shin>

SeNSE Seminar (Simona Vasilache): SNS & Software Engineering
Simona Vasilache, Assistant Professor, Grad. School of Systems and Inf. Engineering

1. Introduction

Everybody knows and uses SNS. What are they? What areas are they used in? What are their benefits/drawbacks? What are researchers saying about them? How can we use them, so they become (even more) useful? We can answer all these questions together!

What is software engineering?! Can I become an engineer if I study about it? Am I going to write software? Can I become a programmer?! Is there any difference between a computer scientist, a software engineer and a programmer?

If we work together, we can come up with more questions (and answers).

(Definition of SE: engineering discipline concerned with all aspects through which software is developed)

We will read various articles & materials and we will discuss them during seminars, which will be a forum for exchanging ideas. Everybody can (and must) express what they think! We will hold round-table style discussions and, as discussions go, we may start with a certain topic and reach a very different one. We may discover things we didn't even know we knew and we can come up with new & exciting ideas.

We will try to understand the increasing role of SNS in the 21st century, mainly in the fields of science and education. Furthermore, we will find out what software engineers do, the challenges they face and how they differ from programmers. We will study interesting examples of success and failure stories, in both the social networking services and software engineering fields.

Moreover, we will all have the opportunity to gain experience in understanding and writing academic papers in English, as well as practice our presentation skills.

2. Semester, period and venue

Bi-weekly; SB building, 10th floor (room SB1014)

(Wednesday, 15.15~)

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

#No particular prerequisites for this seminar

Contact the instructor by email (before Dec. 20) → Individual meeting with instructor / Seminar visit (Dec.-Feb.) → Final notification of selection results (Feb. 20)

4. Additional information

E-mail contact: simona@cs.tsukuba.ac.jp

松原康介ゼミ（都市計画・都市史）

筑波大学システム情報系准教授 松原 康介

1. ゼミナールの概要

都市計画、とくに海外の都市計画や都市の歴史について、共同作業を通して学ぶゼミです。世界中に存在する歴史ある都市空間を、いかにして現代の生活の中で継承し、活かしていくことができるかについて考えます。

指導教員は中東・北アフリカ地域を専門とし、モロッコ、シリア、フランスに留学経験がありますが、地域的な関心は自由で、現在、多くの国に留学した、あるいは留学中のゼミ生がおり、それぞれの都市での生活体験に根差した研究を展開しています。教員やゼミ生が留学先を訪問し、現地ゼミを開くこともあるかもしれません。

毎年夏にはゼミ合宿、また、3年生主体の「大学生観光まちづくりコンテスト」などへの参加（2020年度は佳作を受賞！）を通じて、現地調査とチームワークの精神を学びます。

参考までに、2020年度の卒業生の研究テーマは、「メキシコの植民都市遺産」「パリの共生型再開発」「モンペリエのLRT都市空間」などです。

2. 開講曜時限

毎週月曜1、2限（09：00-12：00）又は金曜の7、8限（18：30-21：30）に開講（自由選択制）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

中東・北アフリカを初めとするフランス語圏の都市に関心がある方、あるいは将来、都市計画を自分自身の職能として、国際的に活動する分野の仕事に就きたい方を歓迎しています。

留学希望者にはゼミとしても全面的に支援しています。指導教員が担当しているのはモロッコのアル＝アハワイン大学（総合）、パリのラ・ヴィレット建築大学（建築・都市史）、モンペリエ第三大学（地理・歴史）です。また、大学院進学希望者は優先的に入ゼミ頂きます。1年間の交換留学を経て4年で卒業し、大学院修士課程の2年間の社会工学の専門教育と就職活動を通して、都市の国際協力に関する広い視野と、都市研究を基本とする専門性を兼ね備えた人材として社会に出て頂きたいと思っています。

文理融合型の研究を進めますが、国際総合学類の学生は、海外への視点や行動力、あるいは語学などの強みを活かしています。数学は必須ではありませんが、実際に都市を歩いて、建築や空間を見る目をしっかりと養います。技法として、GIS（地理情報システム）、フォトショップ、イラストレーター等を習得します。また、入ゼミ後、社工共通の都市計画関係の実習科目や世界遺産専攻等の関連科目を履修頂きます。

ゼミ見学は随時受け付けています。ご希望の際は、教員あてにメールでご相談ください。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

教員連絡先：matsub@sk.tsukuba.ac.jp

ゼミHP：<http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~matsub/>

研究室Twitterアカウント：https://twitter.com/matsub_pro

研究室Facebookページ：<https://www.facebook.com/groups/371902826224617/>